

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ	季節の風を感じて.....	工藤 啓子	ゴルフを以って人を観ん.....	北村 耕三
3 ページ	下総まわらし宿百観音.....	斎藤 雄	心うきうき.....	鈴木 治男

## わが家のハッピー

巴 安 治

これには一瞬あっけにとられた。こちらをじーっと見ながら、背中を丸めて横つ跳び。ペットシヨップからわが家に到着し、親子四人が身を乗り出して見つめる中、カゴから出てきたときのことである。

その奇妙な行動は、自らの体を大きく見せようとする、猫独特の威嚇行為に違いない。まだ生まれて二か月あまりの手の平に乗る幼ない子猫である。その健気なしぐさは、家族みんなの心に「大事にしてあげなければ」という気持ちを抱かせるのに十分であった。

名前はハッピー。アメリカン・シヨートヘアという種の雄猫である。この猫、日本猫とは性格がだいぶ違う。まず、抱かれるのをとてもいやがる。頭を撫でようとするとその手を咬もうとする。不用

意にその体に触れると、反射的に引つ搔かれたり、咬まれたりする。

大昔、ある種のヤマネコを人間が飼いならしたのが、家猫の始まりといわれている。ハッピーには野生が多めに残っているようだ。ガサガサと音をたてると、どこからともなくサーツと飛びかかってくる。ネズミの出没がないので、実力発揮の機会はないが、ゴキブリバスターとしての働きはなかなかのものであった。

そんなハッピーも今年で十七才。人間でいえば後期高齢者ぐらいか。病氣知らずで、医者にかかったのは去勢手術と尿結石のときだけである。あいかわらずじやれるのが好きで、二人の子供たちが独立した今は、わが家の一人っ子。文句は言わないし、さしたる気遣いもいらぬのがいい。

近ごろ、性格はだいぶ丸くなった。頭に手をやっても咬みつこうとしなくなったし、不用意に触れても引つ搔かれたり、咬みつかれたりということとはなくなった。じやれ方も淡泊になった。若いころは、懐中電灯で照らしたあかりを床から壁へと走らせると、それを追って天井近くまでかけ登ったものだが、近ごろは目で追うだけである。

毛並は悪くないので年若い風はないが、さわると尻から太ももにかけての筋肉が落ちていくのがわかる。また、起き上がって歩くと右前足をかばう。そして、名前を呼んでも振り向かなくなった。

レーダーのごとく獲物や危険を察知する、あの鋭敏な耳が聞こえなくなってしまう。

猫の寿命はせいぜい二十年ぐらいと思っていたら、百科事典では十年から三十年とあった。まさかハッピーに見送られることはないと思うが、こればかりはわからない。

(編集委員)

## 季節の風を感じて

佐倉に移り住んだのは今から十年前。当時、子どもたちは六歳と八歳。札幌の街中で生まれ育ったので、ザリガニやカブトムシが近くで捕れる自然環境がとても気に入った。子どもと一緒に、虫かごやバケツをもっては城址公園、印旛沼、野鳥の森など走り回った。その子たちも、今は大学生と高校生。長男は佐倉を離れていった。

子どもと一緒に走り回っていた日々は過ぎ去ったが、私は、今も城址公園や印旛沼周辺を走り回っている。

中学、高校、大学と陸上競技の中長距離選手だった。でも「苦しいだけの競技はもう真つ平」と、卒業後走ることを止めてしまった。二十年近く走ることから遠ざかっていくある日、岩名運動公園を散歩していて、目にした光景が心に灯をともした。シルバー

グレーの男性が、風を切ってグラウンドを駆けていた。競技場は若いアスリートだけのものと思っていたのに……。私も、走っていたのかな？もう一度走れるかな？

今、私は「佐倉走る会」という地元のランニングクラブに所属している。毎週土曜日の午前中、よほどのことがなければ最優先、大事なリフレッシュタイム。走ることだけではなく、人との出会いもうれしい。このエッセーの依頼も走る会の仲間からのもの。

冬の澄み切った空の下、桜吹雪の春の道、蝉時雨の夏、キンモクセイの香る秋、走りながら季節の風や音や匂いを身体中で受け止める。日々の生活のなかで起こる迷いや不安やつらいことも心の中をすり抜けていく。今、季節の風を感じて、走ることがなにより楽しい。

(新町 工藤啓子)

## ゴルフを以って人を観ん

十七歳、ツアー参戦一年目の石川遼が昨年度賞金額一億円を獲得し、その人気は社会現象として取り沙汰されたのは記憶に新しいところ。

一方、月一ゴルファーと自他共に認めるオジサン達が繰り広げる人間臭いプレーには滑稽さと悲哀さがソコ、ココに見られ、興味は尽きない。ゴルフを題材にしたエッセイスト夏坂健氏の著書は、どの項でも、読者は、わが意を得たりとニヤついてしまう。

例えば(一) 奇妙なことに、たいていのゴルファーはショットより言い訳の方が上手である。言い訳の中にさりげなく自慢話を織り込む芸達者も多い。「いやあ、参ったよ。バーデイが二つもあるのに、スコアは四四、四六の九〇だもの。やってられないよ」と言う。(居る！居る！)

例えば(二) 練習場に菓食

う「教え魔」ども、ゴルフの何であるかも知らずに大言壮語、この連中が近くに群れようものならこちらの神経はズタズタ。某名門コースの練習場の張り紙には、「ハンディ二五の人に教わった人は、どう頑張っても二四になれない」とある。(成程！成程！)

例えば(三) キャディーさんに嫌われる客 威張り屋、責任転嫁屋(キャディーが悪い！) マナー知らず屋(ゴルフの規則第一条は「礼節」、スコアを誤魔化すチョンボ屋等々。そして同氏は次のように締め括る。「スコアも大事だが、ゴルフにはスコア以上に大事なものが沢山ある。例えば礼節、秩序、互譲の精神、謙虚であること」(心してゴルフに向き合います)。

佐倉におすすめのコースがあります。佐倉市ターゲット・バードゴルフ場です。

(中志津 北村耕三)

## 下総まわたし宿百観音

根郷地区に住んでいながら訪れる機会があまり多くないが、佐倉市市民文化資産の一つに「下総まわたし宿百観音」がある。

過日某会研修会において、佐倉市農業委員で生涯学習インストラクターとして活躍している遠藤英雄さんに、「地域再生への情熱」と題して馬渡の活動の様子をお話して頂いた。

百観音は馬渡・八坂神社の裏山にあり、秩父三十四・坂東三十三・西国三十三合わせで百体の観音像・供養塔が立ち並ぶ。

この保存会が平成十五年から二十一年にかけて活動し、現在のように整備され散策し易くなっている。私も八坂神社の参拝を兼ねて久しぶりに散策したが、境内は歩き易く森林浴も含めて何か新鮮な気持ちになって帰って来た。

その昔、この付近一帯は馬

渡宿と呼び、千葉方面から佐倉へ向う佐倉街道の宿場町として栄えた地域である。

国道五十一号線の旧道、旭鶴酒造のある町並みは今も人通りも少ないが、静かなながらも昔の面影を残していた。

歌人正岡子規が明治二十五年徒歩での房州旅行の際、三月二十五日に八坂神社前の宿にわらじを脱ぎ、翌朝に詠んだという一句を刻んだ碑が印象的で当時を偲んだ。

月寒し宿取り外す

ひとり旅

下総まわたし宿百観音はJR佐倉駅南口から大崎台・太田・小篠塚等近道を利用して約六キロのところにある。途中寺崎城址や太田権現等、見どころが多い根郷地区を含めてぜひ散策して頂きたい。

(石川 斎藤 雄)

## 心つきつき

いつだったか、テレビで青梅御岳山が放映された。

古くから霊山として崇められた御岳山には、頂上に武蔵御嶽神社があり一度は参拝に訪れたいと思っていた。

同じ想いの仲間三人で御岳山に向った。

青梅駅を過ぎると電車は御岳溪谷を左に見て、高度を上げながら山中に入る。皆、豊かな自然とその景観に目を輝かせていた。

御岳駅前より西東京バスで滝本駅に向う。そこにあるケールブルカーは高低差四二三・四を登る平行四辺形車体の御岳登山鉄道である。

私はケールブルカーの先頭に座り、最高勾配二五度一〇分を登る車窓に感嘆した。

御岳駅より御嶽神社に向けて小道を歩く。自然の中で咲く口ウバイが見頃、さえずる野鳥はヤマガラ、心を癒す小

道を更に進むと前方には標高九二九の御岳山、その頂上付近に御嶽神社を幽かに見ることができた。

点在する宿坊を過ぎて行く右手切り立った斜面に、国指定天然記念物、「神代ケヤキ」がそびえ立っている。推定樹齢一〇〇〇年、樹高二三、幹周約八・二の神木。大樹を過ぎ石段を登り、よ

うやく御嶽神社に辿り着いた。

関東有数の霊場だけあり、宝物殿には国宝の赤糸威大鎧をはじめ、国宝級の鎧や太刀が展示され、一步外に出たら青梅市街がきれいに見渡せた。

大自然の香りと、美しさまでを肌感じた思い出深い旅だった。

(上座 鈴木治男)



## 5月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### たくら道

三月二十九日の日曜日、佐倉朝日健康マラソン<sup>TM</sup>があった。参加人数は初めて一万人の大会を超えた。六十歳になつてからフルマラソンにデビューして、国内外で走つて来たが、沿道から貰った応援が何よりの栄養剤、カンフル剤となつた。

佐倉マラソンは、沿道の応援が少なく、寂しいと思つて

いたので、足を痛めて走れない今回、市民カレッジの仲間を誘ったら三十人以上が応援に参加してくれた。

ゴールの一キロ手前、手作りの小旗や応援幕を持つてフルマラソンのランナーを励ました。ランナーはここまで来ると雑念が消え、とても良い顔でゴールだけを目指して走つていた。

ゴール前五百羅漢で走り抜け

（横山詔正）  
笑声

### あとき



今月の「あとき」を書く

にあたって、再度、五人の方の作品をじっくり読ませていただきました。どの文章も自分の受けた感銘を、適度に状況説明を加えながら、素直にさらりと書いておられることに感心しました。各人各様の題材ながら、どれも、自分の心にしっかりと捉えた事象を

なんの銜いもなく、素直に心をこめて書いておられる姿勢が共通していて、随筆としてのエッセンスが香つており爽やかな読後感を覚えました。

新緑の中のマラソンやゴルフ（ターゲット・バードゴルフも）、佐倉の文化資産「下総まわたし宿百観音」の散策、ちよつと遠出しての武蔵御嶽神社の参拝などに良い季節となります。みなさんも外に出られてはいかがでしょう。

（服部一宏）